

内陸部や標高の高い地域に適応する極早生ウンシュウ新品種‘肥のさやか’の特性

○坂西 英・磯部 暁・満田 実<sup>1)</sup>・藤田賢輔・福永悠介<sup>2)</sup>  
 (熊本農研セ果樹・<sup>1)</sup>熊本県立農大・<sup>2)</sup>天草普及指導課)

【目的】

‘豊福早生’は10月上旬から出荷されるが、内陸部や標高の高い地域では着色が遅く収穫が遅れる傾向がみられる。

そこで、このような地域においても10月上旬から出荷でき、産地全体の均質化が図れる栽培しやすい極早生ウンシュウを育成する。

【育成経過】

1986年に果樹研究所植栽の‘上野早生’を種子親に‘福原オレンジ’を交配し、胚分離・培養後、3年生カラタチに寄せ接ぎし72本の珠心胚実生を養成した。1988年にウンシュウミカンを中間台として1個体3反復で高接ぎを行った。1991年に初結果し、1994年に着色が早く、食味が優れていた個体番号「K-2200」を含めて3個体を1次選抜した。

その後、さらに県内産地での適応性検定試験を行い2001年に「K-2200」を最終選抜し、2004年11月8日に‘肥のさやか’の名称で品種登録された。

【特性の概要】

樹姿は中間で‘豊福早生’と同様である。葉は‘豊福早生’よりやや小から同程度、枝梢及び節間長は‘豊福早生’よりやや長く、トゲの発生は見られない(データ略)。

果実の大きさは100から120g位、果形指数は130程度で‘豊福早生’とほぼ同じである(第1表)。内陸部や標高の高い地域において、着色は9月上旬より着色が始まり、‘豊福早生’より5日程度早い(第1図)。果汁成分は‘豊福早生’と比較して糖度は同程度であり、クエン酸は低い傾向である。収穫・出荷時期は10月上旬から10月中旬であるが、果肉が柔らかく、完熟させると食味はさらに向上する。

以上のことから、‘肥のさやか’は‘豊福早生’と同様に樹勢が強いため栽培しやすく、食味が良い極早生ウンシュウであり、内陸部や標高の高い地域において、10月上旬から出荷可能であり、産地全体の均質化が期待できる。

第1表 ‘肥のさやか’の果実形態および果汁成分(2001~2003年)

品種名	平均果重 g	果実横径 cm	果形指数	果肉歩合 %	着色歩合 分	果汁成分	
						糖度(Brix)	クエン酸含量 g/100ml
肥のさやか	104.7	6.3	130	81.1	5.2	11.2	0.93
豊福早生	99.0	6.4	132	79.8	4.8	11.0	1.09

注) 調査日は10.1時点。シートマルチを7月中旬に実施。

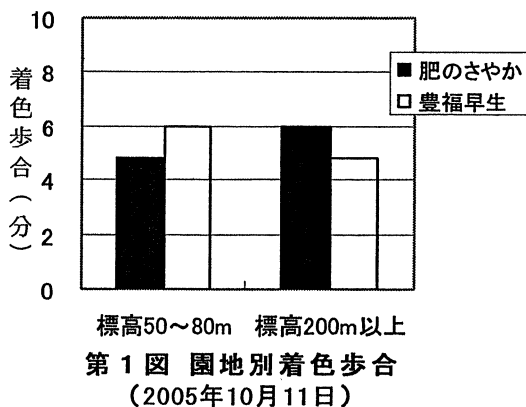


写真1 ‘肥のさやか’の着果状況  
 注) 2002年10月9日